【短報】北海道におけるニセコクロヒラタガムシの記録

ニセコクロヒラタガムシ *Chasmogenus orbus* (Watanabe, 1987) は，群馬県館林市を基準産地として記載されたガムシ科の一種であり , その後国内では本州 4 県（青森県，栃木県，静岡県，および滋賀県）より記録されている（中根 , 1993; 多比良 , 2005; 北野・苅部 , 2012; 大川 , 2012）．筆者は従来記録のなかった北海道において本種を採集しているので報告する．

1♂, 北海道檜山支庁せたな町浮島公園 , 6. IX. 2010; 10♂♂10♀♀, 同所 , 18. V. 2013; 2♀♀, 同所 , 1. VIII. 2015, いずれも筆者採集・保管（1♂2♀♀ は蓑島博士保管）．

採集した個体は，小顎鬚第 2 節が外側へ弱く湾曲すること，雄交尾器側片の先端が鋭く内側に歯状突起を備えることなどの形態特徴から本種と同定された（図 1）．

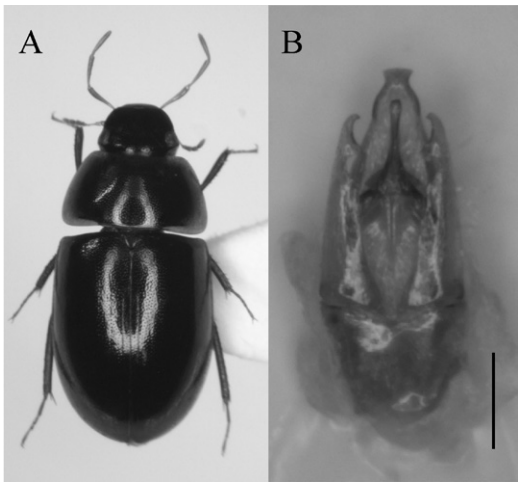

図1. 北海道産ニセコクロヒラタガムシ. A, 背面図; B, 雄交尾器（スケールは，Aは1.0 mm, Bは0.25 mm）．

図2. 生息環境.

ニセコクロヒラタガムシは，過去の記録でもヨシなどの抽水植物の枯死体が堆積した場所から得られており（北野・苅部 , 2012），北海道においても同様の環境で採集された（図 2）．なお，本種は春先の 5 月には多数の個体が見られたが，8 月の観察では個体数は少なく，採集した個体は 2 個体とも未成熟個体であった．

採集場所である浮島公園は北海道南西部に位置し，縄文海進ピーク後に後志利別川の後背湿地として形成されたと考えられる，道南では数少ない低層湿地である（岡 , 2009）．道南域は北海道の稲作の中心地帯であり，低地の湿原の消滅が著しく，浮島公園周辺も民家や牧草地に隣接していることから，排水路による湿原の地下水位低下，およびそれに伴う乾燥化による環境悪化には十分な注意を払う必要があると考えられる．

末筆ながら，本種の分布記録を最初にご教示頂いたホシザキグリーン財団の林成多博士，および発表を勧めて頂いた北九州市立自然史・歴史博物館の蓑島悠介博士に御礼申し上げる．

引用文献

北野　忠・苅部治紀，2012. 滋賀県でニセコクロヒラタガムシを採集 . 月刊むし , (496): 46.

中根猛彦 , 1993. 北日本のガムシ数種の記録 . 昆虫と自然 , 28(9): 23.

岡　孝雄 , 2009. 北海道渡島半島 , 後志利別川低地の沖積層 – 低位段丘上の遺跡と超軟弱泥層（縄文海進最高海面期）の関係を中心として –. 北海道立地質研究所報告 , 80: 63–109.

大川秀雄 , 2012. 渡良瀬遊水地におけるニセコクロヒラタガムシ・ヘリトゲコブスジコガネ・*Microchaetes* 属（マルトゲムシ科）一種の記録 . インセクト , 63(2): 111–112.

多比良嘉晃 , 2005. コウチュウ目 . pp. 107–163, 静岡県環境森林部自然保護室 , 静岡県野生生物目録 .

Watanabe, N.,1987. The Japanese species of *Helochares* (*Crephelochares*) (Coleoptera: Hydrophilidae), with description of a new species from Honshu. Aquatic Insects, 9(1): 11–15.

（岡田亮平　550-0015　大阪市西区南堀江 4-15-7-402）